

『香雪家族の会ひだまり』について

家族会とは、精神障害者を家族にもつ人たちが、互いに悩みや苦勞を分かち合い、連携して支え合うなど、家族の相互扶助を目的として各地域や精神科病院で運営されている任意の集まりです。当院でも、「病氣について知りたい」「社会サービスについて知りたい」という家族の希望を元に、平成12年に「家族セミナー」という名称で創設されました。

主体性の変化の現れ

当初は、医師やソーシャルワーカーが中心となり、主に医学知識や福祉サービスに関する講義形式のプログラムを行っていました。しばらくして二度は不定期開催となりましたが、平成16年からソーシャルワーカーが主体となって運営を担い、月に1回の定期開催となりました。内容は、地域のグループホームや就労支援事業所の見学、家族同士の相互交流を意識した茶話会、コメディカルスタッフからの講話やグループワーク等、精神科に関わることになった家族の「専門知識の習得」や「安心」につながるようなプログラムを提供していました。



当初は、医師やソーシャルワーカーが中心となり、主に医学知識や福祉サービスに関する講義形式のプログラムを行っていました。しばらくして二度は不定期開催となりましたが、平成16年からソーシャルワーカーが主体となって運営を担い、月に1回の定期開催となりました。内容は、地域のグループホームや就労支援事業所の見学、家族同士の相互交流を意識した茶話会、コメディカルスタッフからの講話やグループワーク等、精神科に関わることになった家族の「専門知識の習得」や「安心」につながるようなプログラムを提供していました。

前には家族同士で雑談したり、困ったことなどをプログラム外の時間でも話し合うようになりました。お互いの関係性が深まることで、家族の生き生きとした姿が増えていきました。集団の力が強まり、能動的姿勢へと変化したように感じます。以前はスタッフ主導で考えていたプログラム内容も、平成27年からはメンバーが率先して計画を立てるようになっていきました。

「香雪家族の会ひだまり」の誕生

この頃から、札家連（札幌市精神障害者家族連合会）などを通して、外部の家族会とのつながりも増えていき、いつしか家族自身が当セミナーのことを「家族会」と呼ぶようになりました。平成27年、担当スタッフが退職となった際、「香雪病院家族会」ということを機に、正式に「家族会」と名称変更の運びとなり、2ヶ月か

けて家族とともに名称や運営方法についての話し合いがもたれました。各々が家族会の名前を考へ、全員で悩みながら新たにつけられた名称が「香雪家族の会ひだまり」です。この名前には「自分の家族が病氣を発症し宣告され、不安と絶望の中にいる方々にとって、ここに参加することで安心して温かい気持ちになれる場所になりたい」という思いが込められています。

「家族が感情を表現できる貴重な場

現在は、毎回10名程度の家族が参加しており、平成29年度については、合計12回開催されました。地域の事業所見学や、精神保健福祉士から諸制度の説明などを行う機会もありましたが、ほとんどのプログラムは、家族が会の主体となるような茶話会を中心としたグループワークを行っています。

グループの中では、精神疾患を抱える家族との関わり方を具体的に相談し合う中で、病氣を発症し

これからの発展のために

「私もそうだった」「うちも同じだった」という体験の共有や、乗り越えてきた苦難を語る時間は、家族が感情を素直に表現できる貴重な場になっています。

家族会に参加した方からは、「溜め込んでいたもやもやが解消される」「自分の気持ちを表せる場所であり、同じ苦しみを分かち合える」「自分だけがつらい思いをしてきたのではなく安心した」「みんなの顔を見るのが楽しみ」「正解はないけれど気持ち整理される」といった声が聞かれています。

また、「新しい参加者や若い方にこれまでの経験を伝え、結果として彼らの不安を軽減させることができれば、何らかの役に立てるのではないか。そんな循環が生ま

れ続ける会になれば」と家族自身が家族会の発展を願っていることがわかる言葉も聞かれます。

企画や運営の主体は家族であり、スタッフは日程や場所の確保など、事務調整のサポートに徹しています。このように、家族が中心となり企画運営し、主体的に参加継続できる環境を保证すること、会および家族自身の大きな成長につながっています。今後も、定期的な開催を継続し、新しい家族が加わり、ますます会が発展していけるよう家族と協働し、ひとりでも多くの家族が笑顔になれる、温かいひだまりのような集まりの場を提供していきたいと思っています。



家族会に興味のある方は担当スタッフまでご連絡ください。
月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00
電話 011-884-6878
医療法人社団 五風会 さっぽろ香雪病院
地域連携支援室 精神保健福祉士 佐賀 良太
笠山 菜緒

当院の看護研究発表が受賞をしました



このたび当院の看護研究発表が北海道病院学会と日本精神科医学学会学術大会で受賞をしました。テーマは「迷惑行為や暴言・粗暴性がある最重度知的障害患者への関わり～肯定的な言葉かけによる自己肯定感の向上～」が、第16回北海道病院学会（平成29年7月開催）で優秀賞受賞。また、「認知症治療病棟でのケア見直しによる職員の意識変化～自己学習によるユマニチュード実践を試みて～」が、第6回日本精神科医学学会学術大会（平成29年10月開催）で奨励賞受賞となりました。

看護研究は毎年4月～12月の間、看護専門能力の維持・向上の一環として各病棟で取り組んでいる研究で

す。看護研究は、自ら課題を見つけて解決していくため、系統立てて考える力が養われ、根拠を伴ったケアの実践を支える基礎的能力の向上に役立ち、当院では長年行われています。

受賞をした研究はどちらも日頃の地道な看護業務から取り上げられた内容で、外部発表での受賞は当院にとって初めてのことで、研究メンバーはもちろん、院内全体で喜びを分かち合いました。受賞したことであらためて身の引き締まる思いになるとともに、研究内容を現場に還元することはもちろん、今後も患者様に寄り添いながら継続的な研究や看護の質の向上に努めてまいります。